

令和6年度 特別の教科 道徳 研究のまとめ

田部 彩香

1 特別の教科 道徳本来の魅力に迫るための教師の資質能力について

(1) 特別の教科 道徳が考える「教師の資質能力」の具体

「特別の教科 道徳の魅力に迫る」とは、「一人一人が自分なりのより望ましい生き方を考えている」ということである。そのためには特別の教科 道徳の「見方・考え方」を働かせ、他者の感じ方や受け止め方を認め、それらと自分の価値観を擦り合わせながら、多面的・多角的に物事を考えることが必要になるであろう。本校では、魅力に迫る子どもの姿をより具体的に想定するために、並列で用いられる「見方」と「考え方」を個別に整理し、定義している。(表1)

表1 「特別の教科 道徳の魅力に迫る」ための「見方・考え方」

「見方」 道徳的諸価値の理解を基に、自己との関わりの中で多面的・多角的に題材を捉える視点		「考え方」 自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める方法やプロセス	
[知性的な価値判断] 題材を社会通念や社会規範などと照らし合わせて価値や行為の望ましさを捉えようとする見方	[感性的な価値判断] 異なる価値や他者の存在を考慮せず、題材と向かい合う直感的な見方	[自己を見つめる] 知的理解と心情的理解の齟齬に気付くとともに、無自覚の判断基準を明確にする考え方	[自己の生き方について考える] 他者の意見を認め、自身の意見と比較し、価値判断をする考え方
【特別の教科 道徳の魅力に迫るための「見方・考え方」】 知性や感性を働かせて価値判断を行い、知的理解と心情的理解のずれに気付き、自分自身や他者との対話的学習を通して、より望ましい生き方や行動選択に迫る見方や考え方			

これまでの研究を通して「特別の教科 道徳本来の魅力に迫るための教師の資質能力」の内容を、授業実践の結果から以下に示す。

資質能力	特別の教科 道徳が考える「教師の資質能力」の具体
授業構想力	・ 様々な教育活動を意識して、問題解決的な学習過程を構想する力（目標設定） ・ 子どもの発達段階に即して、道徳的価値を解釈する力（教材研究）
授業実践力	・ 認知面と情意面に触れながら、個人内の価値判断をゆさぶる力 ・ 子どもの心が動いた背景を探り、価値理解につなげる力 ・ 効果的に対話的な活動を取り入れる力 ・ 教材を通した学びを実生活へ接続する力 ・ 児童実態（学年差を含む）に応じて価値理解への支援をする力
授業分析・評価力	・ ねらいに照らして子どもたちの記述内容を、質的分類をする力 ・ 必要に応じて、複数の評価材（評価方法）を併用する力

(2) 特別の教科 道徳の特性に応じた見取りの方法について

ワークシートの記述内容や授業中の発言などを評価材とし、1時間ごとの子どもたちの価値理解及び価値獲得の過程を考察すること、題材同士の関連やその効果についての検討を行うことなどを通して、単元全体の構成に関わる学習効果の検討をする。

(3) 授業公開で見取った児童の姿の例

小学校特別の教科 道徳3年「東雲家族のきずな」(C よりよい学校生活, 集団生活の充実)

資質能力	児童の姿	手立て
授業構想力	(ワークシート記述より) ○「東雲家族」は、行事以外でもつながっていることが分かった。 ○「東雲家族」は、歌、挨拶、横と縦のつながり全部で仲良くなっているなと思いました。 ○これから大切にしたいことは、卒業した6年生や違う学校へ行った友達、先生を忘れないことです。	・児童の意識をつなげるために、毎時間の振り返りを書く「単元シート」を作成した。 ・「しののめ祭り」や「なわとびオリエンテーション」など、これまで学習してきたことを掲示した。 ・よりよい学校生活, 集団生活の充実を考えるために、自作教材を提示した。
授業実践力	(ワークシート記述より) ○「東雲家族」は、学校の人だけでなく、先生やお家の人、卒業生なども東雲家族だということが分かりました。 ○友達の考えで、けんかをしても言葉で解決することが友情だと分かりました。 ・子どもが自分事として考え、自分の言葉で語っている姿が見られた。 ・子どもの考えが他の子どもの発言を受けてより広がり、深まっている様子が見られた。	・中心発問で子どもたちが考える時間を多く設定した。 ・子どもの発言に対して、「例えば？」など、具体を聞くための問い返し発問を行った。
授業分析・評価力	(ワークシート記述より) ○優しい言葉、励ます言葉を大事にし続けたい。 ○これまでの行事での経験を生かしたいです。 ○縦のつながりを大切にしたいです。理由は、上級生や下級生ともっと絆を深めたいと思ったからです。	・「東雲家族」として、これからも大切にしていきたいことや、守り続けたい文化は何ですか。という発問に対して、ICE ループリックで分類した。

2 研究の成果と課題

成果	○問題解決的単元学習によって、今まで漠然と捉えていた「東雲家族」の愛校心をより深めることができていた。 ○児童の意識をつなげるために毎時間の振り返りを書く「単元シート」や、「しのめ祭り」や「なわとびオリエンテーション」など、これまで学習してきたことを掲示したことは、有効であった。 ○自作教材では、児童にとってより身近で考えやすいことから、有効であった。他教科との関連によって授業での学びが生かされていた。 ○中心発問で子どもたちが考える時間を多く確保していることが効果的だった。 ○子どもの発言に対して、「例えば？」など、具体を問い返すことが効果的だった。
課題	●授業の振り返りの記述時間が改善点となった。